The Weekly Journal of
Tokyo Rinkai West Rotary Club

東京臨海西ロータリークラブ

第2580地区(東分区)

Rotary ロータリーは機会の扉を開く

クラブ会長ターゲット

「信頼関係を構築し、奉仕の機会を増やす」
"Build a trust and increase service opportunities"

2020-2021年度
東京臨海西ロータリークラブ会長
飯塚 憲貴

国際ロータリーテーマ

「ロータリーは機会の扉を開く」
"ROTARY OPENS OPPORTUNITIES"

2020-2021年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

2021年6月4日[第63回]
創　　立：2018年11月22日
会　　長：飯塚 憲貴
副 会 長：西野 充英
幹　　事：大星 太郎
会報委員長：伊藤 宏之

6月4日の卓話	5月21の出席率	6月18日の卓話
「コロナ時代を生き抜く 100年企業の挑戦」 髙松建設株式会社 代表取締役者社長　髙松孝年　様	会員在籍者数　38名 会員出席者数　30名 会員欠席者数　8名 本日の出席率　78.94%	「第3回クラブ協議会・ 次年度第1回クラブ協議会」

≪2020-2021年度 オンライン例会 第62回例会報≫

2021年5月21日(金)例会 12:30～14:00

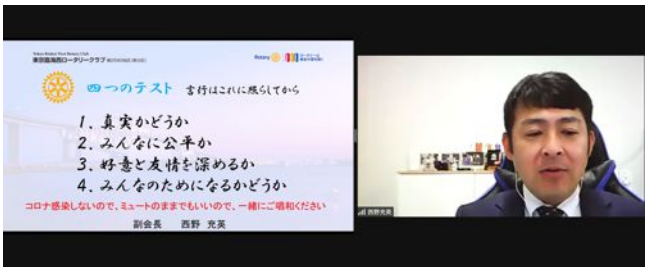
司会:武井隆光会員

■点鐘：飯塚憲貴会長

(飯塚憲貴会長)

(司会：武井隆光会員)

■ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
■「四つのテスト」唱和
■「ロータリーの目的」
東京臨海西RC Ver.唱和：西野充英副会長



■来賓・ゲストスピーカー紹介：飯塚憲貴会長
●東京臨海西ロータリークラブ　特別代表
東京臨海ロータリークラブ　斉藤　実様
●東京臨海西ロータリークラブ　発起人代表
東京臨海ロータリークラブ　鈴木孝行様
●ローテックス　石橋　侑子様
●ローテックス　久保田京香様

(左からローテックス 石橋侑子様、久保田京香様)

■ビジター紹介：
本日はいらっしゃいませんでした
■懇親タイム
3～4名ずつに分かれてグループディスカッション
※約10分間ブレイクアウトルームにて行いました

■会長報告・スピーチ：飯塚憲貴会長
●江戸川区花火大会中止について
●バーチャル国際大会登録・プログラムについて
●7 月 8 日(木)16 時～18 時 Zoom 開催
入会 3 年未満の会員のための
ワークショップについて
●5 月 25 日(火)13 時～16 時 30 分 YouTube 開催
日本のロータリー100 周年を祝う会について
クラブ表彰の報告

■幹事報告：大星太郎幹事

●ガバナー月信 5 月号・ロータリーの友 5 月号・
バギオだより 5 月号を郵送しました(5/13)
●次年度テーマネクタイ・バッジ郵送しました
(5/13)
●6 月 4 日の例会は、レバントでの通常開催を予定
しております。
卓話に髙松建設株式会社 代表取締役者社長
髙松孝年様をお招きしております。

■委員会報告
●島崎委員長より
5 月 13 日地区社会奉仕委員会について

●栗山パスト会長より
7 月 3 日東京都倫理法人会主催
鴨頭嘉人氏講演のご案内

■出席状況報告：岩崎裕馬会員
⇒詳細 1 頁バナー下の出席状況報告欄にて

■ニコニコ BOX 報告：平井修二会員

(ご意向)今日もよろしくお願いします：斉藤実様
(東京臨海 RC・当クラブ特別代表)
(ご意向)ゆうこさん、きょうかさん今日の青少年奉仕フォーラムでの卓話、よろしくお願いいたします。会員の皆さんもぜひ真剣に聞いて、青少年奉仕がどういうものか、そして青少年交換事業とは何か？アウトバウンド、インバウンド、ROTEX とはなにか？をぜひ理解してください。理解がないと実践の障害になります。どうぞよろしくお願いいたします：飯塚会長
(ご意向)青少年フォーラム楽しみにしております：西野副会長
(ご意向)ローテックスの皆さん、卓話よろしくお願いします：大星幹事
(ご意向)石橋侑子さん、久保田京香さん本日の卓話楽しみにしています。よろしくお願いします：栗山会員
(ご意向)鈴木発起人代表、油井会員、栗山直前会長ご馳走になりありがとうございました：菅会員
(ご意向)本日も宜しくお願い致します。ローテックスさんの卓話楽しみにしております：間野会員
(ご意向)本日、青少年奉仕フォーラムよろしくお願いいたします：岸会員
(ご意向)青少年奉仕フォーラムよろしくお願いします：石田会員

平井会員、伊藤会員、飯塚正裕会員、大西会員
清水会員、岩崎会員、岡田会員、継岩会員
島崎会員、武井会員、二瓶会員、雪丸会員
三橋会員、髙橋会員、北林会員

【24 件　82,000 円　累計　2,545,390 円】

■点鐘：飯塚憲貴会長

■2020-21 年度青少年奉仕フォーラム
岸哲也委員長

■岸哲也委員長より

「青少年奉仕委員長の岸と申します。本日はフォーラムよろしくお願いいたします。本日の青少年奉仕フォーラムのテーマは、青少年交換です。奉仕プログラムの中にあります青少年交換について、みなで学びたいと思います。新入会員の方も多数入られましたので、まずは、私のほうから再度、青少年奉仕と青少年交換、そしてローテックスの 3 点について簡単にお話しをさせていただいたあと、卓話に入りたいと思います。そして最後に、残り時間で皆さまに一言ずつ、ご意見、ご感想をいただきたいと思っておりますので、ご準備のほど、よろしくお願いいたします。」

■青少年奉仕の概要

青少年奉仕についてお話しさせていただきます。ロータリークラブ、5大奉仕の中の第5部門に青少年奉仕があります。青少年奉仕は指導力養成活動、社会奉仕プロジェクト、及び国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じ、青少年や若者によって好ましい変化がもたらされることなどが期待されます。

青少年奉仕プログラムには、インターアクト、ローターアクト、ライラ、青少年交換などがあります。年齢30歳までの多数の青少年が、将来、リーダーとなるために必要なスキルを身に付けようと、ロータリーのプログラムに参加されております。

青少年プログラムの参加者は、地域のプロジェクトや指導力開発の研修、文化交流などに参加することによって、自分自身と世界について発見することができます。青少年奉仕委員会は、このようなプログラムを通じて、青少年や若い世代の社会人がリーダーシップ能力を伸ばせるよう支援していきます。

続きまして、今日のテーマの青少年交換についてお話しさせていただきます。ロータリークラブの支援のもと、15歳から19歳の学生が海外に滞在します。ロータリー青少年交換に参加する学生は、最高で1年間、母国以外の国でホストファミリーと生活を共にし、学校へ通われます。参加者は新しい生活様式、さらには新しい言語、そして自分自身についても多くのことを発見することとなります。

また、参加者は、自国やその文化、自分の考えを出会った人々に伝える若き親善使節として、親しい友人をつくりながら世界を一つにする役割を担います。年間8,000人以上の若者が、ロータリー青年交換を通じて貴重な体験をされております。

そして、3 番目のローテックスについてです。ロータリー青少年交換プログラム、これを修了した人たちによって構成されている組織です。各国際ロータリー地区の青少年委員会がスポンサーとなり、現在、青少年交換プログラムを通じて、海外から来日している学生や、次年度に各国へ派遣予定されている学生、また、現在派遣中の学生のケアを行ってくれております。以上 3 点、簡単な説明になります。

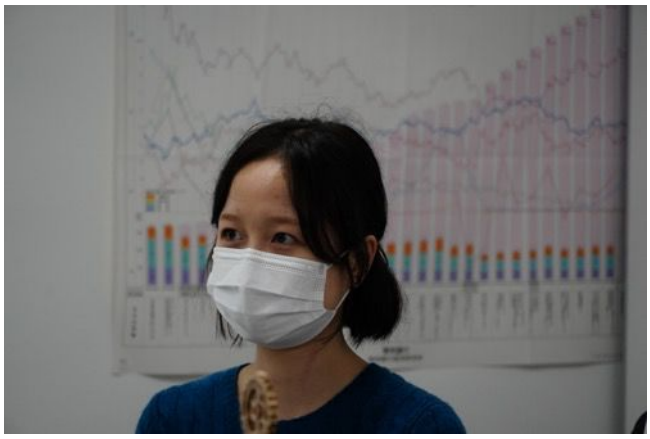
■本日の卓話

●卓話者紹介

［岸哲也委員長］それでは、本日の卓話に移らせていただきたいと思います。青少年交換を実際に体験されたローテックスの方、2名に本日お越しいただいておりますので、改めてご紹介させていただきます。1人目は第52期派遣生、現早稲田大学3年生であります石橋侑子さん。派遣国はドイツに行かれました。

もうひと方は、第 54 期派遣生、現慶応大学 1 年生、久保田京香さん。派遣国ブラジルとなっております。お二方で話をしていただけるということなので、皆さんよく聞いて、勉強して学びましょう。よろしくお願いいたします。

●ローテックス（青少年交換学友）52 期
早稲田大学 3 年　石橋侑子様　派遣国ドイツ



●ローテックス（青少年交換学友）54 期
慶應大学 1 年　久保田京香様　派遣国ブラジル

●青少年交換の紹介

［久保田京香様］本日は、青少年とは、ローテックスとは、活動報告の主に三つのセッションに分けてお話しします。まず、ローテックスの青少年交換について。これは世界中のロータリー地区が地区同士で青少年を1年間派遣・受け入れ合うというプログラムです。現在は約530の地区が、国際ロータリークラブ活動の礎である奉仕部門、青少年奉仕の一環と

してこの活動を行っています。

そして、この奉仕活動は、第1に国際理解と親善の心を育む、第2に青少年のエンパワメントを通じて好ましい環境を生み出す、第3にプログラムに参加する受け入れクラブ、ホストファミリー、地域社会、学生の間に生涯にわたる関係を築くという、三つの主たる目的遂行のために行われています。

青少年交換を行う組織形態はこのようになっています。黄色い部分は学生との交流が多い組織です。実際には、青少年交換委員が月に1回委員会を開き、その場で学生の状況を共有したり、問題解決を試行錯誤したりします。つまり、青少年交換委員が学生を取りまとめて、その地区における青少年交換プログラムに付随するイベントを企画、開催することになります。

今回のコロナウイルス感染拡大による対応も、主に青少年交換委員で議論され結論が出されました。2580地区は日本に来ている海外学生が10人、海外に派遣する日本人学生が10人と規模が小さいので、学生とロータリアンの方の距離も近く、アットホームな雰囲気を感じます。

具体的なプログラムの内容は、海外に学生を派遣する以外の部分は地区によって異なるのですが、2580地区では5年間プログラムを行っています。まず、試験に受かった学生は1年間、派遣予定学生として活動します。これはいわば、海外に派遣されるための準備期間です。海外から日本に派遣されている学生、今後はインバウンドと言います。その学生と共に青少年交換委員の活動に参加します。また、スポンサークラブを月に1回訪問し、日本について、そしてロータリークラブについて理解を深めます。

そして、学生は2年目に、小さな親善大使として海外の地区に派遣されます。現在では受け入れ先のロータリークラブ、つまりホストクラブに通ったり、世界中から集まった海外の学生と交流したりしますが、その活動内容は国ごとのクラブ体系によります。

そして帰国してから2年間、つまりプログラムに参加して3～5年目には、ローテックスとして活動します。ローテックスの活動内容は次の次のスライドでこまかく説明しますが、主に、日本に滞在している海外の派遣生のサポート、プログラム1年目でやる派遣予定学生の活動企画運営、その他、年間行事の企画運営、そして、現在行っているような卓話活動があります。

先ほどの組織図では、ローテックスは青少年委員会に所属します。そして、学生に一番近い存在として、学生に対するアプローチを行う立場であります。先ほど触れたローテックスの活動については以下のとおりです。このような行事を主に企画運営しておりますが、執行代によってその内容はさまざまです。

例えば、ジャパンツアーやサマーキャンプのアクティビティ内容や訪れる県、フィールドトリップの内容や頻度は年度によってさまざまです。逆に、今日庵さんで月に2回開催されている茶道の稽古は、先生方に迷惑をかけないよう、毎年、同じシステムで運営できるよう努めています。この他にもこまかい活動はあるのですが、今回はメインの活動だけをリストアップにしました。

●活動報告

［久保田京香様］続いて、活動報告にまいります。まず、先ほど申し上げたサマーキャンプの様子です。去年は学生を受け入れていないので開催できていないため、これは一昨年のものになります。学生たちはさまざまなアクティビティを通して、学生間、ロータリアンさん方と仲を深めます。

次にフィールドトリップです。これは、一昨年行ったハロンウィンパーティーの様子で、学生たちが仮装してくれました。一番右のタイの子は、この格好で電車に30分乗り、会場まで来てくれました。

これは、毎年、東京上野ロータリークラブさんのご厚意で、下谷祭に参加させていただいているときの様子です。お神輿をかつぐ体験は、日本人学生、海外学生、そして、私たちにとっても刺激的で楽しい体験です。

これはオリエンテーションの様子です。毎月の出来事を共有したり、派遣に対する悩みを共有したり、ロータリアンさんとの仲を深めることができます。

続いて、帰国報告会の様子です。帰国後、派遣先で体験したことを発表します。毎年、学生の成長幅がとても広く驚かされます。ローテックス、ロータリアンのかたがたも、帰国報告は、とても楽しみにしているイベントの一つだと思います。

●派遣体験の報告

［久保田京香様］続いて、私たちの派遣先での様子をお話ししたいと思います。青少年交換54期ブラジル派遣学生の久保田京香と申します。私は2018年から2019年度に、ブラジルのサンパウロ、D4420地区に1年間派遣されました。私は留学中に二つのホストファミリーにお世話になりました。

一つは私と交換で日本に来ていた学生の家でした。その父親が日系人で、なんと私と同じ、久保田という名字でした。また、ホストマザーは私のホストクラブの会長でした。1軒目のホストファミリーは毎年、旅行に連れて行ってくれて、

サンパウロ以外のブラジルも紹介してくれました。放課後はホストグランドマザーと過ごしている時間が長く、ブラジルの伝統のライムジュースの作り方を教えてもらいました。

二つ目は日系の家族でした。家族で会社を経営していたホ

ストマザーとホストファザーは、忙しい人たちでしたが、時間を垣間見て私を気遣ってくれました。このファミリーは、アジア系ブラジル人とのつながりが多く、特に日系の人たちが集まるコミュニティに連れて行ってくれました。自分と同世代で、日本にルーツを持つブラジル人の、日本や日伯関係に対する考え方に触れられました。

ブラジルの高校での経験は、とても貴重なものだったと今でも思います。日本の裏側の学生と共に学べるのは、あの時しかなかったからです。ちょうど私が留学した2018年にブラジル大統領選があったのですが、選挙に近づくにつれて、教室での話題はそればかりでした。高校生だけでなく、中学生や小学校高学年ぐらいの子どもたちも政治の話をしていたことは、とても驚きました。日本で休み時間に友達と政治の話をすることは、まずなかったからです。ブラジルの学生の愛国心を感じました。

留学生との思い出をなくして、私のブラジル留学は語れないと思います。共に過ごした時間は1年と長く、私が留学から帰ってきたのが2年前ですから、もう離れている時間のほうが長いですが、今でも連絡を取り合います。留学中は、彼らと放課後にサンパウロの町を散策する他、一緒に旅行をしたり、アマゾンツアーにも参加しました。異国の地で暮らすという不安や悩みをお互いに共有し合い、国境を越えた友情を築いた彼らは、私にとって兄弟のようなものだと思います。

帰国直前に行われた、ロータリーの各国の文化を紹介し合うイベントでは、留学生たちの故郷の紹介や、料理を振る舞ってくれました。私は、日本から持っていった浴衣を着て、書道のミニ個展を開きました。来てくださった方々には、カタカナでお名前を書いた半紙をプレゼントしました。このことがきっかけで、日本語を読めるようになりたいと言ってくれた人がいて、日本の文化を発信するという役目を果たせた気がします。

帰国後は留学生活について振り返ります。かなり振り返って、将来について考えました。新型コロナウイルスが世界に蔓延している現在、留学はし難いものとなってしまいました。高校生時代にブラジルに留学し、貴重な経験をする機会を与えてくれたロータリアンの皆さまに感謝申し上げると共に、今後、世界の情勢が改善し、また世界中の高校生たちが外国で貴重な経験ができることを願っています。

［石橋侑子様］次に、52期で2016年から2017年にかけて、ドイツに派遣させていただいた石橋侑子と申します。私の留学体験としてはもう5年前のことなので、すごく時代遅れなところもあるかもしれないですが、主にロータリーの活動について話したいと思います。私が行ったのが2880地区だったの

ですが、ロータリー同士の活動がとても活発で、現地にもローテックスがいて、毎月、月に1回ほど、現地の学生だったりと、留学生同士の関わりを企画してくれて、私の日本を発信する機会もたくさんありました。

一番右側の写真の男の子がホストブラザーだったのですけれども、ホストブラザーが私と会って、3カ月ほど一緒に過ごして、それをきっかけに今度、日本に留学したいと言ってくれて。今、ロータリーのアプリケーションホームを書いているって連絡がきたりだとか、そういった、自分が影響で周りの人たちが変わってくれたっていう、リワードを感じることも一つの魅力だと思います。

これは主にドイツに派遣させていただいたので、ヨーロッパツアーっていうものがありまして、それを通じて約2カ月間、100人ほどの学生と一緒にヨーロッパを移動するというツアーでした。これを通して、今まで私はほぼ日本から外に出たことがなかったので、結構クローズマインドなほうだったんですけど、この2カ月間の体験によって、私の個人の、私の中も変わったと思うし、周りの人々にも影響を与えられたのかなと思って、こういう活動もまた、すごく魅力的な青少年交換のプログラムの一つだと思います。

これを最後に自分、この様子もそうです。一番右の写真は、BVBっていう、ドルトムントにサッカーを見に行ったときの写真です。この一番真ん中に映っている子が、私が派遣予定学生だから、さっきのスライドでいうと1年目の学生だったときに、日本に、この東京の地区に来てくれてたドイツからの男の子です。これは個人的に連絡を取り合って、現地で彼の家に泊めてもらって、また一緒にサッカーを見に行ったり、年越しでの関係がずっと続いているっていうのも、とても素敵なところだと思います。

私は東ドイツに留学していたので、とても経済状況がよくない地域だったんです。それで、シリア人難民だったりとか、トルコ人移民、ベトナム人移民の方と話をする機会がとても多くて、それをきっかけに政治だったりとか、そういうことに興味が芽生えまして、今、大学３年生で、そういった開発経済だとか、そういったことを学んでいるので、今の私があるのもこの留学のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。以上で終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

■質疑応答・感想

［岸哲也委員長］

石橋さん、久保田さん、貴重な体験談をありがとうございました。今の話を聞きまして、それぞれにこの青少年交換に対する皆さんの質疑、ご意見、ご感想、ちょっと一言ずつちょうだいできたらと思っております。

今は、コロナ禍で、なかなかこういった活動はできませんけども、やはり今後に向けて、こういった活動がまた再開していくにあたって、やはり我々ロータリアンとして、そういった若い人たちの背中を、押してあげることができればすごく素晴らしいことだと思いますし、そういった中で、このローテックスのお二方にご質問でも構いませんし、皆さんのご意見、ご感想をいただけるとありがたいと思います。

［岩崎裕馬会員］

お話しを聞いてて、すごい職業奉仕からの、要は国際的なことを経験できるっていうのは、すごくロータリーとして、ほんとに若い世代にいい、ためになることをやってるんだなということを、今回初めて、このお話しを聞いて知ることが

できました。
　今後、僕なんかも海外とか行ったことないので、もし機会があれば海外留学とかもしたいなとはずっと思ってたんですけど、なかなかできなかったので。ただ、こういう経験をすることによって、本当にすばらしい経験になるのかなと思い、すごく感銘を受けました。本日はありがとうございました。

［高橋健会員］

　すごく素敵な話しで、僕も海外に住んでたので、海外から見る日本っていうところの価値観だとか、そういうなものを、すごくいい経験をされたでしょうし、素敵なプログラムだなと思いました。素敵な話しをありがとうございました。

［三橋晶会員］

　石橋さん、久保田さん、卓話ありがとうございました。
　僕も子どもたち、私、子ども3人いるんですけど、小学校のときにオーストラリアのお子さんを受け入れるっていう、小学校でそういう制度があって、1カ月ぐらい、オーストラリアのお子さん、男の子2人をうちで引き受けたんですけど、その1カ月でさえ言葉のコミュニケーションであったりとか、生活習慣とか、本当に食べるものっていうのが全く違って、すごく大変だったんです。なので、お二方はどうやってそういうドイツだ、ブラジルだっていう国に行って、皆さんになじんでいかれたんですかっていうところをお聞きしたいです。
―［**久保田京香様**］ブラジルに派遣してたときは、最初のほうは自分がなじむのに精一杯で、どうやって克服しようとか、あんまり考えてなくて。気付いたらブラジルのご飯好きになってたみたいな感じだったと思います。
まずご飯で。あと、ホストファミリーの気遣いもあって、最初はブラジルで売られてる日本の白米を使って料理してくださって、そういう気遣いもしていただいて、徐々に慣れていったと思います。
―［**石橋侑子様**］私は、ドイツの食事って、ほぼパンとバターとハムだけみたいな、だから毎日それが続いて、本当にそれが初めつらくて、スーパーが近くにあったんですけど、そこでチョコレートとかポテトチップスとかを自分で、ロータリーからいただいたお小遣いで買って食べてっていうのをくり返して、10キロ太って。でも、それぐらいで私が太ったなっていうのを周りが気付いてくれて、逆に今度、日本っぽいご飯、川魚の丸焼きとか、逆にそういうのを出してくれたんですけど、それもそれで、これじゃないみたいな感じで、結構大変でした。けど結果的には、半年過ぎた頃くらいからだんだん慣れてきて、嫌いだったものもだんだん好きになってきて、逆に、私がどうしても日本料理食べたいときは、ホストファミリーに作ってあげたりとかもしてたので、そういう感じでどんどん克服していきました。

［坂東裕樹会員］
　お疲れさまです。貴重な卓話、体験談ありがとうございます。もちろん、私自身は旅行はありますけど、留学とかは当然ないんですが、1年って長いなって思っていろいろお話し聞いてたんですけど、1年じゃなく、よく聞いたら5年の計画の中で、皆さんのサポートありながら、本当に貴重な体験をされて、一生の宝だなっていうのを思いました。こういった方々がたくさん増えることをサポートするために、ロータリアンとしてできることがあれば、1個1個やっていきたいなっていうのが、今日お話しが聞けてまた実感できて、ちょっと身近なものとして感じれるようになったので。コロナ禍で大変だと思うんですけども、また海外とかに行き来ができるようになってほしいなと、心から思っております。今後もこういったことを発信するスピーカーとして、お二人がご活躍することを願っておりますので、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

［雪丸隆史会員］

　石橋さん、久保田さん、お話しありがとうございました。私も長男と次男が今、大学生で、授業もリモートということで、なかなかリアルに大学生を体験できてないなっていうところがあって、お二人みたいに海外に1年間、留学することを、非常にすばらしい体験だと思っておりまして。お二人にお伺いしたいのが、その1年間で、海外行ってる間に、日本にいた頃と大きく価値観が変わったことがもしあったら、お二人にぜひ伺いたいと思います。
―［**石橋侑子様**］私、主に二つあって、一つ目はメンタル面といいますか、自分が今、結構、高校までずっと、あんまりつらいこともない人生を送ってきたので、本当に帰りたいとか、結構、人種差別とかもあった地域だったので、本当につらいことがあったんですけど、そのつらいことがあったからこそ、今の自分があるっていうふうに今思えるので、今後そういう困難なことが訪れたときにも、ちゃんと打ち勝てるだろうなっていう、今、自信がついたことがまず一つ変わったことで。あと、もう一つは、やっぱり自分が想像しないような背景を持つ人と、すごく関わりを持つ機会が多くあって。例えばシリア難民の方だったりすると、もう2週間海を泳い

でドイツに逃げてきたとか、そういう経験を話してくれる方が結構いらっしゃって。そういうことを聞くと、自分がこれから日本とか、自分の家族、友達だけじゃなくて、そういう目に見えない人たちに対してアプローチできるような職業に就きたいなとか、そういうふうに考えるようになりました。以上です。

―［**久保田京香様**］私も二つ、変わったことを紹介させていただきたいんですけど、一つ目は、いい意味で周りを気にしなくなったっていうところと。留学する前、日本にいたときは、すごく他人の目を気にしてしまって、自分のやりたいことをやれないとか、自分の気持ちをふさいでしまったりとかしてたのを、留学に、やっぱりラテン系の人たちすごくオープンで、自分のやりたいこともやるし、言いたいこともなんでも言って、そういう人たちと関わり合って、自分もそういうオープンマインドになったような気がしています。

もう1点は、どんどんチャレンジするようになったと思います。ブラジルの1年間はすごく限られた時間で、また今、向こうに行っても、もしかしたらそのことできないかもしれない、そのものを買えないかもしれないって考えたときに、お小遣いが破産してしまっても何でも買ったりとか、あとは向こうでしかできない経験、例えば、それこそアマゾンに旅行に行ったりとかをするようにしていて。今、現在も、日本に帰ってきてからも、チャレンジしようってことを常に意識していて、今、1年生なんですけども、大学でサークルを立ち上げてたりしています。そういうところの2点が変わった価値観だと思います。

［**大西聡会員**］

お二人ともお話しまとまってて、分かりやすくてとても良かったです。ありがとうございました。一つお聞きしたかったのは、このきっかけです、ロータリーを通して行かれたんですけど、どういうところから繋がりがあって、応募されて行かれたのかなと、ちょっとお聞きしたいと思います。

―［**石橋侑子様**］私は、私の通ってた高校が、毎年ロータリーからの留学生を受け入れていて。それで留学報告会だったりとか、その学生と関わる機会が結構多くあって、私も留学したいなって、中高一貫校だったんですけど、中学3年生のときにそう思って。あとは漠然とした海外のあこがれとか、ただ単に行ってみたいなとか、そういう軽い気持ちだったんですけど。学校の説明会に行って、そのまま応募書類を書いてっていう感じで、とんとんって決まった感じです。

―［**久保田京香様**］私の場合は、母親が米山のほうの関係者で、その繋がりで青少年交換のことを知って。まず、中学2年生のときに留学生を家に受け入れまして、そこから自分も留学とかに興味を持って応募しました。

―［**大西聡会員**］ありがとうございます。やっぱり、思いがあってなんですね。僕すごく、若い頃にこういう機会があったらいいなって思いながら聞かせてもらいまして。やっぱりすごいすばらしい体験をいただいたなと思います。ありがとうございました。

［**金森俊成会員**］

久保田さん、石橋さん、ありがとうございます。僕が感じたのは、お二方の表情です、マスクしてるんですけど、目にすごい強さというか、しっかりしたというか、芯というのが見えて、話し方も含めて、いろんなチャンレジする気持ちで、先ほど大西さんが聞かれた答え、そのとおりだなっていう。もともと好奇心っていうとか、もともとそういう気持ちがあって、いろんな体験をして、今ここに立って。すごい強い芯があるかたがただなと感じて、それは僕の中では才能だと思っているので。

自分の息子なんか8歳なんですけども、多分、行けと言っても絶対行かない人間なので。そういった子どもたちに向けて、どういうふうに、才能かもしれないんですけれども、こういった話をシェアする機会とかがあれば、ぜひ立っていただきたいなっていうふうに、話を聞いてて思いました。今日はありがとうございました。

［**間野勉会員**］

久保田さん、石橋さん、卓話ありがとうございました。お伺いしてる中で、試験があると思います。留学するにあたって試験を受けたということだったんですが、その試験の内容的にはどういったものだったのか、ちょっとお教えいただけたらと思うんですが。

―［**石橋侑子様**］試験の内容は主に英語試験と、英文の和訳と和文の英訳の試験が一つ、あと面接、あと小論文っていう3部構成で。問題文はローテックスが考えたりだとか、青少年交換委員会の、委員の方の関係者に例えば英語の先生がいらっしゃったりとかしたら、その方が考えてくださったりとかしていまして。面接はローテックスと、あと委員のかたが中心に、年によって異なるんですけど、集団面接だったり、

個人個人の面接だったりを行って、最終的にその日のうちに会議、青少年委員会の中で会議をして、その日のうちに通知するという感じです。
―［間野勉会員］大体倍率的にはどのぐらいになるんですか。
―［石橋侑子様］倍率は1.5倍ぐらい。年々どんどん下がってきてるような、それこそさっきおっしゃってましたけど、留学、そもそもこのプログラムがあることを知らないっていう人が多いので、年々、応募してくる学校だったりとかもどんどん固定されてきて、人数が減ってるっていう感じです。
―［岸哲也委員長］倍率が1.5倍。確か、2580地区で10人って言ってましたっけ。20人いかないですもんね。
―［石橋侑子様］私の1個上の代とかは4倍とかだったので、6年前とかはもうちょっと人がいたらしいです。

［岡田竜司会員］

久保田さん、石橋さん、ありがとうございました。私も19のときに、全く英語ができない状態で2年間、ロサンゼルスのほうに留学してたので、文化の違いとか驚いて、ものすごい成長したんだろうなと想像できます。ほんとに海外行くと、日本の常識とか文化って全く通用しなくて、すごいいい経験ができたと思うんですけど。
僕の場合は、公園とかにいると、男の子に声掛けられたら、取りあえずドラゴンボールの話しをしておけばコミュニケーションとれたんですけども、お二人もなんかそういう、日本の文化で、これだけ言っとけばコミュニケーションとれたみたいなのはありますか。
―［久保田京香様］ブラジルでは、やっぱり老若男女、本当に国民全員がサッカー好きなので。本田、香川って言っとけば喜んでました。
―［石橋侑子様］私もドイツだったので、香川がちょうどブンデスリーガでプレーしてたので、香川って言うと、日本人っていうと向こうから香川って言われたりとか。子ども、小学生とかもみんな、サッカーカードみたいなのを持ってらして、ポケモンカードみたいな感じで。だからやっぱりサッカーでした。あとは、マリオも結構有名でした。1回、マリオってなんで日本の会社なのにイタリア人なのって聞かれて、答えられなくて、なんで日本人なのに答えられないのって怒られたことあります。

［継岩憲二会員］
今日は久保田さん、石橋さん、お話しありがとうございました。うちの娘も中高一貫校で、中学校のときに修学旅行でアメリカに行って、それがよくて高校のときにまた1カ月間、高いお金を出して短期留学、同じ所行ってきたんですけど。やっぱり食事のこと、さっきおっしゃってたように悩んでたのと、最後にホストファミリーに食事を振る舞うらしいんですけど、日本の料理を作るとやっぱりびっくりされて、カレ

ーかなんか作ったのかな、最初はびっくりされたけどおいしかったという話を聞いて、そうなんだと思ったんですけど。
お二人も、日本の食べ物とかやっぱり恋しくなったってさっきおっしゃってて、そういうのを通じて、日本に生まれてよかったかなとかって思われましたでしょうか。どうでしょうか。
―［石橋侑子様］そのとおりで、私は日本、もともと好きだったんですけど、帰ってくるときはすごい日本大好きで帰ってきてます。もちろんドイツも好きなんですけど、いろいろ、向こうにいたからこそ気付いたことがあります。
―［継岩憲二会員］ちなみに、じゃあ、永住は無理ですか。向こうに、やはり。
―［石橋侑子様］帰ってきたときは、もう絶対戻んない、一生日本に住もうと思ったぐらいだったんですけど、でもなんか今、また5年もたっちゃって、ちょっと、でもやっぱり楽しかった思い出とか思い出されて、また住める機会があればいいなっていうふうには思います。
―［久保田京香様］私がブラジルの生活で、日本についてすごく感動したのが、日本のお菓子がとてもおいしいんです。ブラジルのは、ただただ甘いみたいな、チョコレートに練乳混ぜちゃうみたいな感じの中で、それから日本に帰ってきて、お菓子おいしすぎるみたいな感じになりました。

［島崎久志会員］

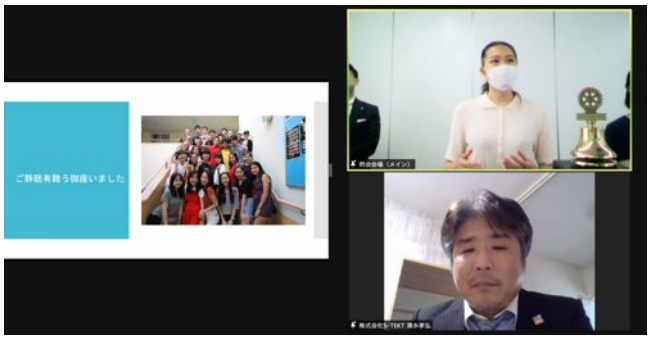
石橋さん、久保田さん、大変貴重なお話しありがとうございます。こういう取り組みがあること自体、すいません、おはずかしながら、ロータリーやってますけれどもあんまりよく分かってなかったので、今日、お二人のお話しを聞いて、とてもいい取り組みをロータリーってやってるんだなと、改めて認識しました。すいません、ありがとうございました。
お二人にご質問なんですけども、久保田さんの写真の中に、学校に通ってるみたいな、すごい楽しそうな写真があったんですけれども、イベントとかアクティビティとかっていろいろやってると思うんですけれども、普段、日常生活、1年間ずっと住んでるわけですから、毎日何をやってるんですか。変な質問ですいません。
―［久保田京香様］私は、学校では普通に、現地の学生たち

と一緒に同じ授業を受けて、歴史の授業とかよく分かんないなと思いながら受けていて。あと、放課後、私は火曜日に毎週、フットサルのチームに通っていて、放課後はそれをしたり、あとはみんなと遊びに行ったりとかはしてましたね。授業は普通に受けて、退屈しながら受けてました。
―［石橋侑子様］私はもう、ご指摘どおりで、毎日、何をしてたかっていうと、学校に行っても、結構その学校が、ドイツの学校って塾みたいな感じで、特にクラスとかもなくて、自分のとる授業をとって、教室移動とかも毎回しないといけない中で、私を含め、3人留学生がいたんですけど、結構宙ぶらりんな感じで、好きな授業とっていいし、好きなところ行っていいよみたいな感じだったので、よくその3人で、午前中だけ授業出て、午後はアイスクリーム食べに行ったりとか、近くの池に泳ぎに行ったりとか、そういったことをしてました。
―［島崎久志会員］なるほど、大学生みたいな感じだったんですね。
―［石橋侑子様］そうです、ほんとに。ただ、町も狭いので、だんだん1カ月ぐらいでやることが尽きてしまって、そっから先は学校に頑張って行ったりとか、よく分かんない授業に出てみたりとかしてました。
―［島崎久志会員］ありがとうございました。

［平井修二会員］
うち、子ども3人いまして、3人目が高校3年生で、やっぱり留学を希望してるみたいなんで、私も今度使っていいのかな。
―［岸哲也委員長］遅いです。
―［久保田京香様］米山とか。
―［平井修二会員］そうなんですね、分かりました。全然知らないんで。でも、未来あっていい話だと思います。肝心なことは、学んでどうそれを社会に還元するか、活かしていくかってことですので、ぜひ仕事をいずれやるでしょう、仕事やっていくんですよね。税金払ってもらいますので、きちんと税金払えるように、立派な大人になっていただければいいなと、このように思っております。よろしくお願いします。

［石田清貴会員］
GutenTag。石橋さん、久保田さん、今日はありがとうございました。今から数十年前、私も大学でドイツ語を履修していたのをちょっと思い出しました、挫折しましたが。私も海外好きで、個人的に、旅行レベルですけどいろんな国を行きますが、ただやっぱり、ドイツとかブラジルって非常に遠い国なんで、非常に貴重な体験をされたんじゃないかなと、うらやましく思っております。今、日常生活のお話もお聞きしましたが、アルバイトとかは、そういうのはできないんですかね。
―［石橋侑子様］そうですね、できないです。
―［石田清貴会員］できないですね。なんで、貴重な経験されてると思いますし、日本のよさっていうのも感じられたと思うので、日本って島国で、国際感覚に欠けているとかいうお話もいろいろ聞きますので、ぜひこの経験を生かされて、もう私も年寄りなんで、お二人とかの時代にお任せしたいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。今日はありがとうございました。DankeShane。
―［岸哲也委員長］アルバイトはできないけど、お小遣いは少し、多少もらえるんですか。
―［石橋侑子様］そうです。

［佐藤太基会員］
石橋さん、久保田さん、今日はありがとうございました。私も大学生のときに、コロラドっていう所に行ってたことを思い出しました。どちらか、ホストファミリーに皆さんに向けてのお礼で、半紙に書道っていう、カタカナで名前を書いてあげるっていうのをプレゼントしたっていうの、すごくいいなというふうに思いました。私も行ったときは、空手のデモンストレーションをしたことをちょっと思い出しながら、いいアイデアだなっていうふうに思っていました。今日はどうもありがとうございました。

［清水孝弘会員］


ありがとうございました。お二人の話、スライドもいいんですけど、やっぱり質疑応答いいですね。本当に苦労したお話しとか、経験して成長した話とか、そういう話聞くとすごくいいなというふうに思います。うちの子どもが今、中国人でして、日本に来て、日本に馴染むのってすごく難しいなっていうのがあるんです。やっぱりジェスチャーが、海外の人は大きかったりとか、距離感が近かったりとか、そうすると日本って、結構拒絶するというか。でも、これからは世界のほうにやっぱり目を向けて、国境もどんどん、あってないようなものになってきてると思うんです。なので、日本の子どもたちも、もっと世界に目を向けていくようにしていかないといけないと思うんですけど、お二人からすると、どうすればみんなが世界に行きたいなと思えれるようになるかなっていうのを、なんか問題提起みたいなものがあれば聞きたいんですが。
―［久保田京香様］私がいいなと思うのは、自分の趣味に関して、国際交流の視点で広げていくっていうことがいいと思っていて、例えば、アニメが好きな人だとしても、海外にも日本のアニメ好きな人がたくさんいて、どういうアニメが好きなのとかっていうのでも話題を広げられると思うし、スポーツが好きだったら、スポーツには本当に国境もないと思いますし、こういう選手好きなんだよっていうところで広げられると思うので、自分の趣味っていう視点で、国際交流ができるんじゃないかなと思っています。
―［石橋侑子様］私は、ある程度、海外に対する高い壁みたいなのを感じてる子が多いと思うんですけど、それが実際そんなことないよっていうのを教えるっていうのが、一番手っ取り早いかなと思うんですが、一番、壁があんまり高くないということを示すには、やっぱり1回行くことが大事だと思います。海外旅行でも何でも。例えば、私も留学行く前まで、本当に海外に1回も行ったことがなかったんですけど、とんとん拍子で決まって、実際に行って帰ってきてそれを実感したってことなので。やっぱり人に言われる話よりも実感することっていうのが、一番定着すると思うので。それこそ、こ

のロータリーのこういった活動だったりとか、そういったプログラムがもっともっと浸透していって、私たちのような学生が、自然と増えればいいんじゃないかなと思います。

［橋豊和会員］

こんにちは。久保田さん、石橋さん、ありがとうございます。皆さん聞いちゃったと思うので、朝は何時に起きるんですか、まず。起床時間と消灯時間を。

―［**石橋侑子様**］留学中は、ドイツ人、朝早いので、朝7時とか6時台に起こされるんですけど、なかなか起きず、毎回怒られてました。朝、めちゃめちゃ熱い紅茶を私ががぶ飲みするので、それにすごい驚かれて。日本人はこんなに熱いものを毎日飲むのみたいなことも聞かれたことがあります。ですから、7時半とかに起きて、夜は9時10時にWi-Fiが切られて、消灯されてました。

―［**久保田京香様**］私は、学校が7時10分から1時間目だったので、6時半とかに起きて。こんぐらいのサイズの、フランスパンって言ってもいいのか分からないぐらいのブラジルのフランスパンを出されて。夜は、12時前には寝てたんじゃないかなと思います。

―［**橋豊和会員**］ありがとうございます。早く起きます。

［北林貴臣会員］

久保田さん、石橋さん、貴重なお話しありがとうございました。写真とか見て、スライドとか見たんですけど、楽しそうにやってて、1年間留学っていうことなんですけど、そのホストファミリーっていう方たちは、多分ロータリアンなのかな。ということは、経営者っていうところなのかなと思って、経営者の方と1年間一緒に暮らしたっていうことで。今から卒業して就職していくと思いますけど、就職したあと、自分も経営したいなみたいな、ちょっと商売して、儲けて、ロータリーに入会してっていうお気持ちはありますかっていうことが質問です。

―［**石橋侑子様**］そうですね。私、ホストファミリー、ドイツは自分の子どもが外に、例えば日本に来てる、行ってたら、親がその家庭に1人受け入れるっていうシステムだったので、3ホストファミリーあって、一つはロータリアンだったんですけど、二つは普通の一般のご家庭でした。ただ、日本に帰ってきてから、ローテックス活動をする上で、青少年交換委員会の、それこそ飯塚憲貴会長とかとよく一緒に活動させていただく機会が多くて、その中でやっぱり、ロータリアンはすごいなと思うことが多くあるんですけども、もちろんそういった方とも一緒に食事をさせていただいたりとか、企画する上でこんなふうになりたいなっていうふうには、常に思っています。

―［**久保田京香様**］私の第2ホストファミリーが、家族で会社を立ち上げて経営していらっしゃる方だったんですけど、工場見学にも行かせていただいて、すごいなって。もともと会社向いてるよって言われて、ホストファミリーにも。あなた会社、例えば向いてるからやってみなよとは言われたんですけども、そういうのもありなのかなって思っています。やはり、金銭的な面で支援をしていただいて、経験できたこの留学なので、私も将来、これからローテックスとしても、もしかしたらそれ以降も、こういう青少年交換に関わって支援していきたいなって思っております。

［西野充英副会長］

石橋さん、久保田さん、貴重なお話しありがとうございました。ほんとに、私、ロータリアンになって4年ぐらいなんですけど、今回の青少年フォーラムは一番、いろいろ写真とか多彩で、お二人の話が入ってきまして、とってもよく理解できました。ロータリーが我々の話でいくと、米山だとか、ニコニコボックスだとか、そういったところでちょっとした寄付なんかもしてますけど、そういう寄付がこういう活動につながっていくんだなっていうのが、非常によく、そこに紐づけたら、われわれの活動、募金だとか寄付とかっていうのも、すばらしいことなのかなって感じることができました。そして、岸委員長ありがとうございました。いろいろ準備いただいたんだと思います。そして、飯塚会長が人選をされたんだと思いますけど、すばらしいお二人だったと思います。ほんとに準備ありがとうございました。我々のクラブもそういった意味では、もしかしたら交換留学生を受け入れてくださいなんていうことが、将来あるかもしれません。今日のお二人のような人たちを、逆に迎える側になる可能性もあるのかなと、イメージしながら聞いておりましたので、その際には、皆さん協力して受け入れをしていきましょうと、ちょっとイメージできました。時間もないことなんですが、2人に一つだけ質問がありまして、これから就職とか起業とかっていうのがあると思うんですけど、どんな職業に就きたいなと今お感じになってるんでしょうか。もし、決まってたら教えてください。

―［**石橋侑子様**］ありがとうございます。私、今3年で就職、就活しないといけない時期になってきて、考えてるんですけども、やっぱりロータリーでいろいろ経験させていただいた

ことから、大学とかも自然と海外の方と関わる機会が多かったりとか、そういったバックグラウンドを持つ人と多く関わっていく中で、日本の企業の海外進出だったりとか、それこそ中小企業と海外の事業を繋げたりとか、そういった仕事に今、興味を持っています。

ただ、そこまでそれに固執してるというわけではなくて、最終的に国境関係なく、社会に自分の力で還元できる仕事に携われたらいいなと思っているので、まず自分の能力を明らかにするところから始めているところです。

―［久保田京香様］私も、先ほどのプレゼンテーションで、帰国後に将来のことについていろいろ考えたと申し上げたんですけど、私自身が中国にルーツを持っていまして、それって日本ではずっと隠して生活してきたんですけど。ブラジルに行って、ブラジルってすごくいろんな人種の人がいるので、そういう人たちが堂々と生きている社会って素晴らしいなって思って、日本でもそういう、外国にルーツを持つ人だったり、在日の外国人だったりが暮らしやすい社会にしたいなと思って、大学でも学びたい教授の下に入りまして、今、勉強しているところです。なので将来は、そういった方たちのサポートをできる仕事をしたいなと思っております。

［栗山義広会員］

今日は石橋さん、久保田さんありがとうございます。うちの娘も実を言うと大学3年で、石橋さんと同い年かな、20歳。うちの娘も中学のときに1回、ロンドンに短期留学させたんです。質問とかはないんですけど、感想を。短期留学させたら、やっぱ絶対日本がいいなって言ってて、留学行ってもいいよって言ったんだけども、行きたくないって言いました。そんだけ視野が違うし、考え方ってこんなに違うんだなっていうのが。ただ、うちも3人兄弟、子どもがいて、一番下は絶対、俺、留学したいって言ってる子どももいたり、いろいろ子どもによって考え方が違うんだなと。

ついでに言っちゃえばうちの娘、就職活動あんましたくないんだよね、どっかない？っていうぐらい、結構適当なやつであるんですけど、ただ、やっぱり経営者になりたいっていうのはあるらしくて。パパの言った通りに進みますんで、ぜひご指導よろしくお願いしますっていうのをこないだ言ってきましたので、そういうのを、娘の今後、将来を見据えたことを、いろいろ皆さんの意見を聞きながら考えていきたいなと思いました。感想です。以上です。

［岸哲也委員長］

それでは皆さんの意見をいただきまして、最後に、私の感じたことなんですけども、本当に今日来ていただいたお二方は、しっかりとした自分の意思を持ってやれておることを感じました。それで、今までクローズマインドだった自分がオープンマインドに変わったと、マイナス思考だった自分がプラス思考に変わったと。こういった、やはり変化をされてます。やっぱりこういう交換留学っていうのは、青少年交換というのは、そういった方々が変化するきっかけが与えられるんじゃないかなということで、今後も我々として応援させていただきたいなと感じた次第であります。皆さん、よろしくお願いいたします。本日はお二方、ありがとうございました。

●飯塚憲貴会長総評

皆さん、本日は長い時間ありがとうございました。私、この東京臨海西ロータリークラブの会長をやってるのと同時に2580地区の青少年交換委員をやっています。お二人のような子どもたちを審査して、1年間オリエンテーションして、1年間海外に送り出して、その間は1年間、海外から日本に来てるインバウンドたちも受け入れて。そして、その3年以降、帰ってきた子どもたちと一緒に、また行く子どもたち、来てる子どもたちを一緒にお世話するという、そういった委員会をやっております。その委員会をやってる理由も、やはりこのロータリークラブでバギオ訪問ありました。私は高校1年生と、中学校2年生の娘と息子を連れて海外に行ったんです。そしたら、子どもたちがすごい主体的になって、自分たちで考えて、自分たちで行動する、そんな子どもたちになったので、青少年奉仕事業っていいなと思ってました。

最初は青少年奉仕と青少年交換の違いも分からず、ほんと、二つ返事でやりますって言ってやったんですけど、今は本当に、こういった意識の高い子どもたちと一緒に活動できることによって、本当にやってよかったなと思っております。

先ほど、西野副会長からお話ありましたように、今、当クラブでは受け入れをしておりません。なぜかというと、まだ創立5年以内のクラブなので、まずは自分たちのクラブの基盤を作ることが私たちのクラブの一番大事なことだと思っています。なので、委員会には6年目以降から受け入れ。そして、スポンサークラブとして対応しますというお話しをしていますので、ぜひ皆さん、この来年、4年目、再来年、5年目という年度のうちに力をたくわえて、6年目以降受け入れる子どもたち、スポンサーする子どもたちに対してちゃんとして、全力で、そしてこのクラブに関わってよかったと、子どもたちに思ってもらえうるように頑張っていきたいと思っています。

この青少年奉仕フォーラム、今年の青少年奉仕フォーラムがいいきっかけになればなと思いまして、皆さんにこの長い時間割いていただきました。ぜひ、今後とも青少年交換事業、青少年奉仕、皆さんで協力してやっていければなと思っております。皆さんの会費、ここに使われてるということを分かっていただけたかなと思ってます。

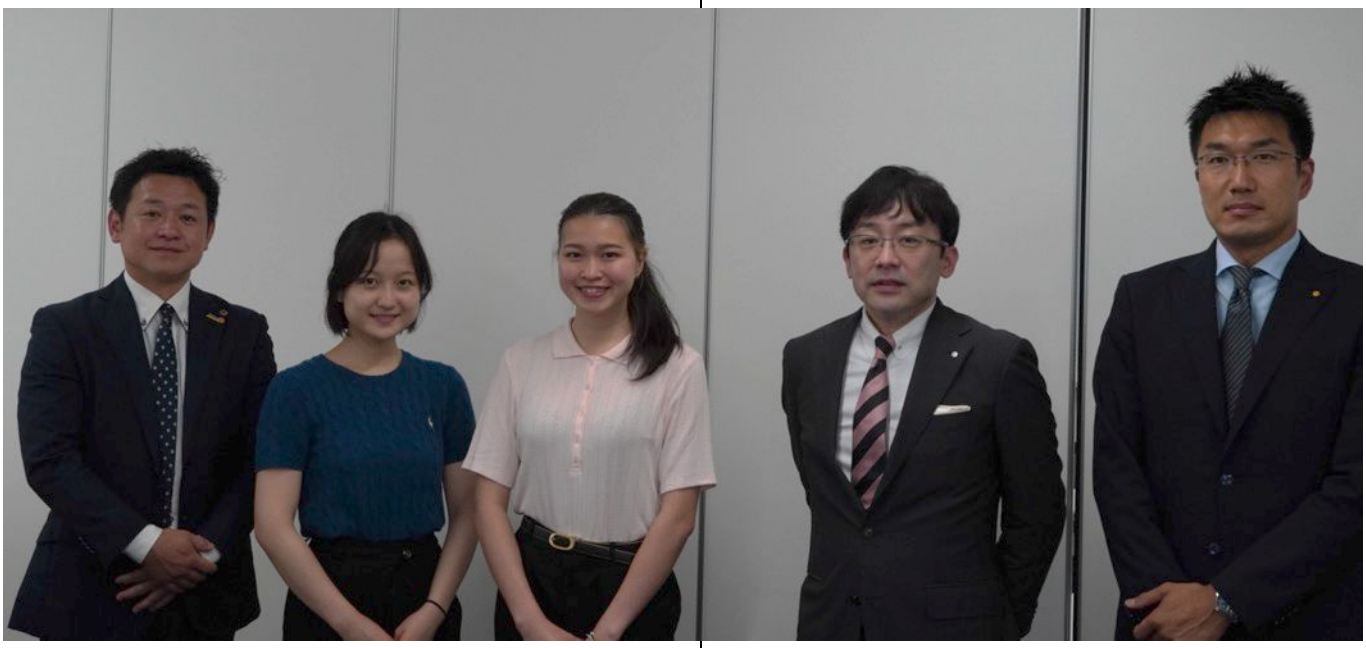
最後に、今、コロナで2年間、子どもたちを送り出すこともできず、受け入れることもできていません。このコロナが早く落ち着いて、早く皆さんのお知り合いのお子さんたちを、この青少年交換事業で送り出していきたいなと思っております。そして、皆さんが家庭で、ぜひ海外から日本に来ている子どもたちを受け入れる、ホストファミリーにもなっていただきたいなと思っております。

青少年奉仕事業においてロータリークラブが負担するのは、学費と宿泊費と、あとお小遣いです。それが皆さんの寄付金で成り立っています。その他のお金、チケット代とか洋

服代とか、研修費とか旅行代というのはご家族が持つものです。なので、本当に他の長期留学に比べると、50万ぐらいでできちゃうんです、ご家庭は。なので、すごくいい事業をしていると思いますので、ぜひ皆さん、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。以上、会長としての総評でした。ありがとうございました。

［岸哲也委員長］

皆さん、お疲れさまでした。それでは、青少年奉仕フォーラムをこれにて閉会とさせていただきます。皆さま、ありがとうございました。



（左から飯塚憲貴会長、ローテックス 石橋侑子様、久保田京香様、
岸哲也青少年奉仕委員長、大星太郎幹事）